

き物の町として知られてきました。代々の名工たちがこの地域で育ち、地元の小学校に通っていたことでも知られていま

す。

いかにたくさんさんの陶工を輩出してきたのか。それは東山区の小学校に残る卒業生からの奇贈品を見れば分かります。陶工が輩出されるたびに、立派なつぼなどが1、2とがうかがえます。

点飾られているのはよく、焼 見る光景です。ところが、安井、六原、貞教、修

た。

その他、同校には実に50点以上の作品が所蔵されており、長年かけて、陶工が増えつつあるに

た。

六原校には、京都の陶器界を大きくリードした

た。

また、文化勲章も受賞した楠部彌子は栗田校の出身で、1928(昭和3)年の校舍増築を記念して「黒袖牡丹唐草文壺」を寄贈しました。京都市立美術大学(現京都市芸大)の学長も務めた近藤悠三は14(大正3)年に安井校を卒業し、「刺染付壺」(写真②)が贈られています。

## 代々の名工母校に寄贈

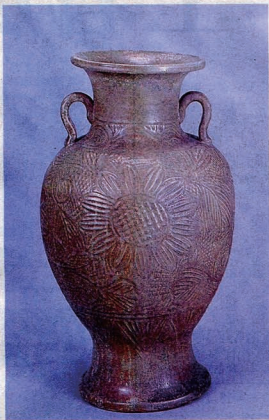


写真1、五代清水六兵衛(六和)「緑袖向日葵花瓶」

大正(昭和時代)元六原小蔵



写真2、近藤悠三「刺染付壺」

(昭和時代)元安井小蔵

(写真①)が所蔵されてきました。六和は六原校を卒業、その子である六代目清水六兵衛も同校に通っており、親子二代で母校へ作品を贈っています。

また、文化勲章も受賞した楠部彌子は栗田校の出身で、1928(昭和3)年の校舍増築を記念して「黒袖牡丹唐草文壺」を寄贈しました。京都市立美術大学(現京都市芸大)の学長も務めた近藤悠三は14(大正3)年に安井校を卒業し、「刺染付壺」(写真②)が贈られています。

こうしたコレクションの一部は統合後に東山開晴館へ移動され、今も児童にとって身近なギャラリーとなっています。

(京都市学校歴史博物館 学芸員 森光彰)

今回紹介した近藤悠三「刺染付壺」は学校歴史博物館(下京区)の常設展示で観覧できます。